



# 浜須賀まちのちから

## 浜須賀自治会

会長 細川知嗣

### 新たな取り組み「総合防災訓練」

文字通り「Withコロナ」となり、感染防止に留意しつつ自治会活動を再始動しました。6月には今年度計画の「防災」に関する新たな取り組みを実施しました。大規模地震を想定し、従前の訓練を集約連動させた3つの実践的な訓練です。

#### ① 安否確認（要支援者をポイントに全世帯が参加）

・パンダナを玄関先に掲示し班長が集計、結果を各組の防災ボランティアが受け防災リーダーに報告、トランシーバーを交信して本部に集約

#### ② 「自治会災害本部」設営や被災支援

・防災倉庫がある公園に本部テントを設営、関連資機材を準備し地域からの要請に対応する支援体制づくり

#### ③ 2つのモデルケースの実践

・ケガ人の浜中（医療救護所想定）への担架搬送  
・避難行動要支援者の緑小（避難所）への車イス誘導  
初めての試みで課題も出ましたが、毎年定例化することで、人的防災力など「災害に強いまちづくり」を目指し、住民が力を合わせ推進していきます。



▲ 役員、委員、住民有志で災害本部設営



▲ 南北2カ所で防災ボランティアが報告

## 菱沼海岸緑自治会

会長 佐藤滋美

### 共助を目指して

当自治会は、西はラチエン通り、東は浜須賀小学校、南はゴルフ場に面した29組604世帯からなる。私をはじめみんなが感じたことは、会の運営や意義を見直す時期に来ていることだった。それを受け運営方針は透明性とスピード、テーマを防災と環境に絞った。私の想いはこうだ。この地域性から防災への備えは不可欠。そして有事で最も発揮されるのが共助。その共助は相互信頼があればこそであり、それはコミュニケーションで成り立つ。その想いで、会を支える組長との信頼感を大事にしたいと思った。会計や実施事項はいち早く開示していく。また、ありがたいことに組長会議は意見が多く活発で、そこにも共助を感じる。忙しいなか役員同士もグループやWeb会議を駆使し、非常に楽しくやっている。防災と環境で自治会内の交流をもっともっと図るつもりだ。最後に、例えば回覧版を渡す、そんな些細なつながりも周りを知り、街を知り、そして共助につながるものなのだ。



## 浜須賀中学校

校長 一星光利

### 宿泊行事を終えて

6月16日から17日の日程で国立中央青少年交流の家において2学年の野外体験学習を行いました。野外炊事でカレーライスをづくり、夜はキャンドルファイヤーを行いました。また、6月20日から22日までの日程で奈良・京都方面に修学旅行に行つて参りました。初日は奈良公園の東大寺で大仏にお参りし、2日目は班別自主行動でグループごとに京都市内を巡りました。3日目はタクシーによる班別自主行動でした。宿泊場所は京都東急ホテルです。3年ぶりに実施した修学旅行となりました。今回の宿泊行事を無事に終えることができたのも、教育委員会や保護者の方のご理解やご協力あつてのことであることを、心から感謝したいと思います。

## 緑が浜小学校

校長 柴田貴行

### 子どもたちの「学び」と「安全」の両立

緑が浜小学校では、4月に体育館での入学式を再開しました。教室実施形式とともに準備し、最終的にガイドラインと市内の感染状況を踏まえて決定しました。5月には5年生が足柄ふれあいの村へキャンプに行き、かまどの火おこし体験をしてレトルトカレーを食べ、部屋の人数を減らして宿泊しました。6・7月にはプールでの水泳学習や事故防止の着衣泳を行いました。参加人数を減らし、更衣中やプールサイド、水中での密を避けての学習です。安全監視に人手が必要なため教職員出張者がいると計画できず、回数確保が難しいこともわかりました。

## 浜須賀小学校

校長 松永忠弘

### 七夕飾りから生まれる「つながり」

毎年、七夕になると、地域の方のご協力で笹を頂戴し、1年生が笹飾りを作ります。今年は、それに加えて、大きな笹をいただいて全校の児童が願い事を書いた短冊をつりました。コロナが断ち切ることができないもの、それは、「人と人とのつながり」です。休み時間に友だちと誘い合つて短冊をつるしに来たり、友だちの書いた短冊をさがしたり、願い事を互いに読みながら楽しそうに話をしたり…。まさに、七夕飾りから子どもたちのたくさんの「つながり」が生まれました。学校は、コロナ禍においても、教育活動を決して止めません。子どもたちの安全・安心を最優先に考えながら、「つながり」を創ってまいります。







### 民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員は、令和4年11月をもって一斉改選されます。各自治会長から内申をいただき委嘱準備中です。各自治会長、関係者の皆さまへ、厚く感謝いたします。残念ながら、欠員地区が生じる見込みです。現委員も後任委員探しに躍起です。地域福祉に理解のある方を求めています。皆さまのご協力をお願いいたします。



みんびよん



▲訪問見守り活動時等にはブルーベストを着用しています

### よりよい浜須賀地区のために 浜須賀地区まちのちから協議会

浜須賀地区まちのちから協議会は平成25年に発足し、浜須賀地区内の団体等と茅ヶ崎市が協働し、浜須賀地区の公益の増進のために活動しています。

この浜須賀地区まちのちから協議会には、地区内12の全自治会が参加していますが、そのうち10自治会では新しい自治会長が就任され、新しい体制でスタートしています。これを機に、自治会を始めとした団体同士の情報交換を進め、各団体の活動における課題を、連携して解決できるよう、取り組んでまいります。

また、例年であれば、市民集会や防災訓練を始め、浜須賀地区の皆さまが一堂に会して、まちのちから協議会の活動にご参加いただく機会もありましたが、久しく実施できていません。コロナ禍になってから中

止が続いている事業については、「どのようにすれば事業をできるか」ということを第一に考え、浜須賀地区の皆さまが少しでも広く参加できる事業を再開していきたいと考えています。



▲令和元年度の防災訓練の様子(情報受伝達訓練)

### 身近な街路樹の植込みに草木を植えて街並みをきれいにしませんか

緑の里親ボランティアに登録の上、草花の植えつけや種まきなどを行うことができます。希望される方は、活動希望場所を決めたうえで市役所公園緑地課までご相談ください。また、地域と市が一体となって、公園の美化活動や緑化活動を推進するための公園愛護会制度もあります。5名以上の団体で公園内の清掃や除草などを行うことにより、報奨金もあります。清掃等に必要物品も貸与いたします。詳細は、市役所公園緑地課までご相談ください。



▲鉄砲通りにあるマックスバリュ茅ヶ崎浜須賀店前の植樹帯に、ヒマワリの花が咲きました。



### 地域が動かした電柱

松が丘二丁自交差点を南北に横切る「神輿道」が、地域のみなさんの声で拡幅したお話しです。浜須賀まちのちから協議会創立以来、「市民の集い」で狭い交差点の電柱移動を要望しました。行政は住民要望を聞いてから数年後になりましたが、要望に取り組み、自治会・民児協・推進協・学校の働きかけで8年、僅か1m程ですが、電柱を住宅側に動かし、小学生が安全に信号待ち出来る空間を確保しました。反対側の松も涙を吞んで撤去させていただきました(写真左上)。新体制になっても出来ることを一歩一歩やって行きます。

(会長・朝倉)

▼電柱を住居側に1m動かしました



▲反対側の松も涙を吞んで撤去させていただきました

編集委員 ▼朝倉・松浦・久木田・角田・大門・安藤・梅木・清水